SL 活動を通して～子供に適した接し方とは～

社会福祉学部社会福祉学科 2 年　金松　健太
活動先：NPO 法人　菜の花　放課後児童クラブこどものいえ
クラス：岡　多枝子　先生

今回このサービスラーニング活動を通してまず自分が気づいたこととして、「社会と日常生活の違い」というものを痛感させられた。具体的には、普段自分が過ごしているこの「日常」において、許されていることが社会では通用しないということである。自分たちは小学生を対象にしている施設で活動をさせていただいたのだが、例を挙げると活動先での言葉づかいが社会にはそぐわない口調であるということがあげられる。普段自分たちの使っている言葉づかいで子供たちに接していると施設にいる子供たちにも自分たちの言葉づかいが移ってしまい、将来その子供たちにも影響が及んでしまうのである。また立ち振る舞いや身だしなみも、活動には適しておらず、活動日の途中でそのことを指摘され初めて自分たちの間違いに気づいたのである。その一件から自分たちなりに言葉づかいや立ち振る舞い、身だしなみに注意をして活動をしていったところ、活動の最終日に褒めていただくことができて、改めて自分たちの間違いを正す機会を与えていただけたことはとても実りのある活動であったと思われる。そのほかにも、自分たちの注意不足で一人の児童を熱中症にさせてしまったこともあり、子供の体力と自分たち大人の体力の違いを身をもって知ることになった。また、自分たちが思っている物事についても自分たちの視点と子供たちの視点ではまったく違うということで子供と接する場合、自分たち大人は子供と同じ視点から物事を判断したり理解しなくてはならないということも気づかされた。以上が 6 日間の活動についての気づきになる。

次に、活動を通して自分たちが成長したことについてである。まず、上にも書いた通り普段の言葉づかいや立ち振る舞い、身だしなみに気を付けるということは、サービスラーニング活動だけのことではなく、これから社会へと出る際に、必ずと言っていいほど身に着けていなければならない“常識”であり、この常識を今更では遅いとは思うが、学ばせていただけたのは大きな一歩なのではないだろうかと思われる。また、少しではあるが子供がどのように物事を考えているのか、どのようなことで喜び、どのようなことで怒ってしまうのか、など活動とは少し離れてしまうが、将来自分が子供を持ったときの参考？になったのではないかと思われる。実際に小学生の子供たちと接してみて、些細なことで楽しんでもらったり喜んでもらうことができたことで、子供たちに対して大人がやれることはまだまだたくさんあるのではないかと思う。以上が活動を通しての自分の成長したのではと思われる事柄である。

次に、活動を通して見えてきた地域活動としてだが、自分たちの活動した場所では、近くにある高齢者施設での活動も何度か体験させていただき、活動先の子供たちと施設の高齢者の方の交流会もやらせていただいた。自分が思うに、子供の立場で考えてみると、普段接している大人よりも高齢の方とのふれあいは子供たち自身の祖父母以外では、なかなかないと思われるので、貴重な体験をさせていただいていたのではないかと思われる。また、高齢者の立場からも小学生との交流の機会があまりないのではないかと思われるので、

高齢者の視点から見てもいい交流会になっていたのではないかと思われる。しかし、自分たちが活動しているときはあまりそのような機会が設けられていなかったので、上にも書いたように交流の機会を増やすことで互いにいい体験をすることができ、施設外での交流も増えていくのではないかと思われるので今後もっと交流する機会を設けたほうがいいのではないかと思われる。また、子供たちの親同士の交流する機会を設けることで地域の輪が広がっていくのではないかと思われるので、こちらもそのような機会を設けるとよいのではないかと思われる。

最後に、今回 6 日間活動させていただき、小学生の子供たちとの交流や、子供に対して適した接し方、また高齢者との交流など普段の学生生活では体験できないようなことを体験させていただき、自分たちにとってとてもいい学びの場となったのではと思われる。